

平成26年度 第2回学校評議員会 〈会議録〉

日時 平成27年2月13日(金) 15:00~16:40

場所 水沢高等学校大会議室

出席者 学校評議員3名(2名欠席)、学校教職員15名

学校評議員、校長、副校長、事務長、総務主任、教務主任、生徒指導主事、進路指導主事、保健主事、 図書主任、情報広報主任、SSH理数主任、1学年長、2学年長、3学年長、学科主任(理数科)
--

次第

- 1 開会のことば
- 2 校長あいさつ
- 3 出席者紹介
- 4 平成26年度教育活動の総括
学校評価(自己評価)結果について 教務課
- 5 協議(説明、質疑、提言等)
 - (1) 進路状況について 進路指導課
 - (2) 部活動の成果について 生徒指導課
 - (3) スーパーサイエンスハイスクール事業について SSH理数課
 - (4) 保健室の利用状況、教育相談の実施状況について 保健厚生課
 - (5) 図書館の利用状況について 図書課
 - (6) その他
- 6 その他
- 7 閉会のことば

■学校からの説明事項

- (1) 学校評価について、生徒、保護者とも概ね高い評価を得ているととらえているが、記述に関しては厳しい指摘もある。改善要望に関してはできるところから応えていきたい。
- (2) 部活動について、運動部・文化部ともに大きな成果を収めている。
- (3) 進路の状況について、センター試験の数学ⅡBが極端に難しくそのまま結果に表れている。本番はこれからであり、粘り強く取り組んでいく。
- (4) SSH事業も順調に推移している。11月の文科省での中間評価では、長年SSHに取り組む本校に対し高い水準の要望が寄せられた。独立行政法人科学技術振興機構(JST)から、次年度のSSHリーフレットに本校の取組を掲載するとの知らせがあった。
- (5) 学習実態調査等で携帯、スマホの利用時間が長いとの結果が出ており、奥州地区の校長会の申し合わせで夜10時以降はコミュニケーションツールとして使用しないという呼びかけをしている。

■協議事項

1 学習指導、進路指導について

- (1) 胆江地区から他地区へ生徒が流出している現状があるようだが、進路目標が達成できる結果を示せば、他地区に出るよりは胆江地区で学ぼうというふうになるであろう。
 - (2) 学校へ行こう週間に授業参観して、自分たちの頃と比べ授業は大きく進歩していると思ったが、このように努力してもなお進学実績は向上の余地があると資料を見て感じた。交通の便がよくなり、難関大学を目指す子が盛岡地区の高校に通う実態もあるようで、こうした中で水高の位置づけをよりいっそう明確にすることが必要である。
- (回答) 本校は文武両道を目指す進学校である。これは過去、現在、未来ずっと続くものである。しかしながら、大学に進学しさえすればそれでいいという考えはない。人間としての成長、社会で求められている人間力を

つけることが大切であると職員間で確認しているところである。そのため、校長講話においても一貫して「よりよく生きること」をテーマに実施している。

- (3) 推薦入学の生徒たちの学力保証の取組が必要である。また、団体競技の推薦生徒であっても個人を評価する仕組みにしていきたい。
- (4) 以前の水高には私立文系コースがあり、受験教科を重点的に学習する中で難関私大に合格していた実績があるが現状はどうか。
(回答) 全国的に教科選択は自由な場合が多く、東北地区でも福島と宮城は受験に必要な教科を学習させる傾向にある。一方、岩手の学校では全教科を学ばせるのが主流であり、本校も同様に取り組んでいる。岩手の学校における部活の全員加入や、全校による応援歌練習などは全国的には珍しく、この特徴が学業面における最後までやり抜く方針にも通じていると解釈している。ただし、その中でも私大専願の生徒に対しては、担任が面談をとおして親も含めて相談しながらきめ細かに対応しているところである。
- (5) アンケートで数学や英語が分かると答えた生徒が高い割合を示しているが本当だろうか。どの程度のところであったと答えているのかを探る必要がある。

2 スーパーサイエンスハイスクール（SSH）事業について

- (1) SSHの取組がJSTのパンフレットに掲載されることは大変嬉しく素晴らしいことだと賞賛したい。
- (2) 研究開発で「郷土を起点に・・・」とあり、大学では岩手大や岩手県立大と連携しているが、郷土の範囲を東北ととらえることでいっそう各分野を網羅した連携が可能となる。たとえば仙台にある大学と連携するなど切り口を替えてみてはいかがか。
(回答) 実現するためには予算との兼ね合いもあるが、連携の幅は広げていきたいと考える。なお、東北大学の「科学者の卵プロジェクト」に採択され、支援を受けながら研究を深めているチームがある。
- (3) ILC（国際リニアコライダー）に興味があり理学部系統を志望する生徒がいるのであれば、仙台の八木山にある東北大学サイクロトロン（・ラジオアイソトープセンター）での研修をお勧めする。将来的にILC研究の中心になる施設なので、生徒と足を運んで勉強してみたいか。
(回答) ILCに興味を示す生徒はおり考慮する。
- (4) 課題研究テーマは生徒が設定しているのか、あるいは、教員が勧めているものなのか。
(回答) テーマは生徒の希望や意見に基づいて設定している。担当教員は、生徒の希望するテーマについて、研究として膨らませていくという視点で助言を行うなど、研究の焦点化を支援する役目を担っている。なお、本校SSH運営指導委員の助言もあり、テーマ検討の早い時期に大学教員の意見も得ながら、より発展性のあるテーマ設定が図られるよう取り組むこととしている。
- (5) 課題研究の成果を英語で発表する取組に大変驚いた。これがSSHの効果であると思う。さらに理数科ではない生徒にも波及できるよう、上手にSSHを利用できればいいと発表会を参観しながら思った。
- (6) 学校設定科目サイエンス・イングリッシュは、専門用語と専門用語を繋げていくのが中心で、文学的な英語表現と異なり、比較的取り組みやすい科目と思っているので、やりやすさをアピールする方法もあると感じている。
- (7) SSHで外部講師を依頼している何人かと仕事の上で付き合いがあるが、素晴らしい先生方であり、この事業では人選も重要な要素であると感じている。
- (8) 水沢東ロータリークラブで国立天文台に講師をお願いしたところ、とても分かりやすく気さくな方であった。高校生とも仲間みたいな存在であり、理学系に関心を持つきっかけを与えてくれるものと思う。

3 生徒指導、教育相談について

- (1) 往来で行き交った際にあいさつが少ない、自転車乗車マナーのいっそうの指導が必要であるとの指摘を、近隣住民から聞いている。
- (2) 町内会の用事でチラシを配っていたら、応援団の生徒がちょうど野球の応援に行くと言って向こうから「おはようございます」とあいさつをしてきて、水高生もだいぶスマートになったと感じたことがあった。
- (3) 市内の高校の支援組織の役員をしているが、その生徒のあいさつはものすごい。あいさつによって地域

や保護者からの評判が大変よくなってきているので、いいところはどんどん取り入れ競い合いながらいい方向にいていただければと思う。

(回答) あいさつについて、去年の11月に県教育長が来校した際に校舎・敷地を案内したところ、生徒たちが非常に元気のいいあいさつをしてくれ、教育長が感心していた。さらに取り組ませたい。

(4) 心に不安を抱える生徒の支援をお願いしたい。

(回答) 支援を必要とする生徒の状況に応じて、親身になって対応をしているところ。

4 教育環境の整備、地域連携、その他について

(1) 行事（文化祭、芸術鑑賞、音楽部定期演奏会）に参加し、とても楽しい時間を過ごさせていただいた。文化祭などは、自分の子どもの時よりもじっくりと見させていただいた。

(2) 生徒アンケートに冷房が欲しいという要望があり、これは時代なんだろうなと感じた。自宅では冷房が当たり前で、なぜ学校だけないんだとか生徒の中ではいろんな意見があるのだろうと思う。

(回答) 本校ではいくつかの特別教室にエアコンを設置している。また、3年HR教室に扇風機がある。なるべくいい環境で勉強できるようにしたいと思うが、限られた資源をどう使うかということも教える必要がある。暖房に関しても、燃料を減らしているわけではなく例年並みを維持しているが、実際には苦情もある。地球温暖化防止の取組も大切であり、我慢すべきところは我慢してもらいながら進めている。

(3) 国立天文台では地域との連携を大切にし、その活動を広報して地元の人に研究への理解をうながしている

ので、水高もいっそう連携を図っていくことがよいだろう。

(4) 水高の立地している水沢区南地区の今後10年の計画策定について、町内会長会で話題にしているところである。検討の過程で、地域にある水高との連携について10年計画に盛り込みたいが、何を願うのがいいか結論が出ていない。いずれにせよ、水高からの情報を地域に繋げる役目を担っていく所存であり、地域連携の在り方についても一歩前に踏み出せるような形を模索していきたいと思っているので協力願いたい。